

# 泉州で八十年 宮大工の流れをくむ総合建設業

## 岩出建設株式会社



代表取締役社長 岩出 和哲

### 岸和田城の再建を手掛ける

岩出建設株式会社は、泉州地域を地盤とする総合建設会社である。施工実績は、寺社仏閣、公共施設、学校、病院、マンション、レジャー施設、社屋、工場など多岐に亘る。特に本社のある岸和田市では、岸和田城の再建および改修、岸和田だんじり祭りのフィナーレの舞台となる岸城神社、岸和田天神宮の建築などを手掛けたとして非常に有名だ。

同社の前身である岩出組は、宮大工の家系で育った岩出和哲現社長の祖父・育雄氏が1938年に創業した。当時は寺社仏閣の建築のかたわら、だんじりの制作にも携わっていた。岩出社長が同社の原点を振り返る。

「だんじりは、木材の仕入・加工、彫り物、組立てなど多岐にわたる工程をそれぞれの専門職人が分業で行いますが、それを統括して請負っているのが岩出組です。今の総合建設業の仕事に通じている



岸和田城再建当時。鯰瓦を運び出している様子。

②瞬く間に訪れる不況に対し、会社はなかなか臨機応変に対応できない、ということですから、常に一歩先を見ながら時間をかけて準備しておくことが肝要だと考えています。」

### 少数精鋭で顧客からの信頼を獲得

現在、全国に建設業者は約47万社ある。その中で、同社は2つの大きな強みを持っている。一つ目は、生産性の高さだ。数値での管理を徹底し、組織・個人の年間目標を明確化、それを一人ひとりが意識できる仕組みを作っている。「少数精鋭を心掛けたうえで、間接部門は必要最小限とし、施工品質や安全にかかわる現業部門に比重を置いた人員配置としています。例えば、工事関係の担当者20余名で10カ所ほどの現場を動かしています。同規模の建設業者と比べると、生産性は非常に高いと自負しています。現場が1つの工事を終えたら、すぐ次の工事へ移れるよう、営業担当者



岸和田市のシンボル『岸和田城』。天守閣からは街を一望できる。



岸和田城の鎮守神社である『岸城神社』。御鎮座650年の記念事業として、同社が御社殿を新築した。



2015年に竣工した近代的な印象の『岸和田市桜台市民センター』は、市民の憩いの場となっている。

といます。」

戦後は寺社仏閣以外の建築も手掛け、1948年に岩出工務店、50年には岩出建設株式会社へと発展していった。そして54年、岸和田城の再建を担当することになる。

「岸和田城は1827年に落雷で焼失しましたが、和歌山城よりも立派なお城だったと岸和田の人々は大変誇りに思っていました。再建は市民からの多額の寄付により実現しました。」

同社が岸和田城の再建を担当したのは、寺社仏閣の建築実績と技術力、さらにはカリスマ経営者であった育雄氏の手腕が買われたためとみられる。資材や機材などが満足に無い時代に、限られた予算、1月着工・11月竣工という短期間で、壮麗な3層の天守閣の再建を果たした。この工事により、岸和田における同社の地位は不動のものとなり、高度成長期には多くの公共工事も手掛けた。

ちなみに、いまも街のシンボルとして名高い岸和田城は大阪府指定史跡であり、先日は『続・日本の百名城』にも選定された。重森三玲作の庭園(八陣の庭)は国指定の名勝である。

は口スのない受注を心掛けています。」

また、業界全体として人手が不足する中で、迅速に各種工事の職人を手配するとともに、現場監督として天候の変化やトラブルに柔軟に対応し、工事計画を円滑に遂行していくのも、同社が長年培ってきたノウハウだ。

2つ目の強みは、何といても泉州地域において盤石の顧客基盤を持っていることである。80年間『ただ一つ施主のために』を行動指針とし、地域に根差した活動を続けてきた方針は今後も変わらない。

「建設業にもサービスが求められると思います。当社は土地のご相談から設計、施工までを一貫して請け負っています。最近メンテナンスや修繕などのアフターフォローにも力を入れ、建築に関するご要望には全てお応えできる体制を整えています。当社が携わった建物は、長期的にケアさせていただきたいと考えています。」

誠実な姿勢が顧客からの絶大な支持に繋

### 景気に左右されない体制づくり

1979年には、JR東岸和田駅前のショッピングセンター『トーク岸和田』の開発に携わった。(株)ニチイ(現・イオンリテール(株))を核テナントとした大型施設は当時としては珍しく、地域経済の活性化が大いに期待された。このとき、同社は開発だけでなく、オーナーとして不動産賃貸業に本格進出した。

「建設業は景気に大きく左右されるため、安定した収益を得たいとのねらいでした。」

収益基盤が強化されたことは、その後、同社が事業を継続する上で非常に効果的だった。84年に2代目社長の正次氏に交代し、ゴルフ練習場など事業の多角化を図り、また、92年の岸和田城・平成の大改修を担当するなど業績は順調に拡大していった。しかし、バブル崩壊による不況の煽りを受け、同社も受注件数の減少など少なからず影響を受けた。

「私は95年に入社し、2011年に社長に就任するまでの間には、バブル崩壊やリーマンショックによる業界全体の危機的状況を目の当たりにしました。その中で実感したのは、①好況の後に不況は必ずやって来る、

がっている。ただし、人口減少により建設需要の減退が予想されるため、今後は泉州地域での建設事業に軸足を置きつつも、他事業への新規参入も模索している。

「社員には日頃から考え、発言することを求めています。人手不足については、まだ大きな影響を受けていませんが、影響が出てくるのは時間の問題でしょう。そのためにも一人ひとりのレベルアップが必要だと考えています。」

現在は管理職の教育に力を入れ、定期的社内研修を開催し、専門外の知識を習得することで、幅広い視野で物事を判断できるような指導している。将来的には、トップから一般社員まで同じ目線で議論できる組織を目指す。

先行き不透明な時代の舵取りを任された3代目の岩出社長は、『地元に必要なとされる会社』として次世代にバトンタッチしていきたいと繰り返した。

同社は、これからも泉州地域にとってなくてはならない存在であり続けるだろう。



- ▼ 創業：1938年10月
- ▼ 創立：1950年11月
- ▼ 従業員：54名
- ▼ 資本金：3億円
- ▼ 所在地：岸和田市並松町1番5号
- ▼ TEL：072-439-4501
- ▼ 事業内容：建築・土木工事、設計施工・管理、不動産売買・管理、リフォーム一式など